

永野小学校・学校だより(5月)

遠景・近景

校長 小泉 啓治

あわただしい4月が終わります。子どもたちの学年が変わり、新入生を迎え、職員の異動があり、年度初めの仕事に追われた、本当に長い3週間余りでした。

そんな中で子どもたちは、新しい環境に喜びと期待感をもって過ごしていたように思います。毎日の登校班で一年生の手をつなぎ、速さを加減しながら歩く上級生。「もう友だちできたよ。新しいクラスにすぐ慣れたし楽しいよ」と声をかけてくる子。今年の新たな目標に向かってチャレンジしているのが伝わってくる子。そういう子どもたちにエネルギーをもらった4月でした。PTAの委員を引き受けてくださった方、毎日の登校指導に立ってくださった方、子どもたちの安全のために下校時のパトロールをしてくださった方、保護者の皆様や地域の方々にもたくさんの応援をいただいたの3週間でもありました。

さて、話は変わりますが、奈良県の法隆寺のある斑鳩に西岡常一さんという宮大工がいました。何年前にお亡くなりになりましたが、法隆寺や薬師寺などの寺院建築の古くからの技術を受け継ぎ、その修理や再建に多くの業績を残した方です。そのお弟子さんに小川三夫さんという方がいらっしゃいます。しばらく前にテレビに出ていて、師匠の西岡さんから教えられたことや、ご自身の弟子の育て方について語っておられました。大変印象に残った言葉がいくつもあったので紹介します。

(西岡さんの弟子の育て方について)

「よう見とけよ、と言うだけ。教えてもらったことはない。教えることは教えないこと。」(自身の育て方について)

「学ぶ雰囲気のあるところでは教えなくても自分で学ぶ。大切なのはその雰囲気をつくること。」

「(私は)教えずに、(弟子たちに)自分で試行錯誤をさせて何度も何年も無駄をさせる。そうするとある時自分で何かをつかみ、ぐっと伸びるようになる。」

「大工の技術を学ぶのに器用な人とそうでない人が確かにいる。しかし、器用な人がよいかというところでもない。器用な人はすぐ分かるので深く考えない。不器用な人はずっと考えているから考えが深くなる。」

「器用な人は30cmの直角定規で10mを測ろうとする。学校ではそれを賢いという。不器用な人は10mの定規を作ろうとする。家を造るとしたら、あなたはどちらを選びますか。」

学校とは違う教育ですから、同じようには考えられないのはもちろんですが、その含蓄の深さに感銘いたしました。

目指す教育の姿を考える遠景と、毎日の子どもたちの姿の近景を常に意識しながら今月も職員一同頑張ります。よろしくお願いいたします。